



新たな学校生活がスタート

市内小中学校で4月6、7、8日、入学式が行われました。今年度、市内では小学校256人、中学校298人の新入学児童が新たな学校生活のスタートを切りました。

このうち、瑞穂小学校（一戸瑞校長）では、男子24人、女子19人の新入生を迎えました。式では、保護者や在校生が見守る中、新一年生が入場。一戸校長の式辞に続き、6年生の木村瑠那さんが「これから楽しい学校生活が始まります。一緒に遊んだり勉強したりしましょう」と歓迎の言葉を述べました。交通安全母の会から黄色安全帽が贈られ、最後に全校児童で校歌を歌い、入学を祝いました。



担任の先生から1人ずつ紹介される新1年生



交通安全の誓いを発表する柴田子供交通指導隊

交通事故防止に決意を新たに

春の全国交通安全運動に合わせ、つがる市民交通事故防止総決起大会が4月8日、松の館で行われ、約200人が交通安全へ決意を新たにしました。

大会では、つがる地区交通安全協会の桜庭修会長が「安全で快適な人と車の共生社会の実現を目指し、地域一体となってさらなる交通安全運動を展開していきたい」とあいさつ。つがる警察署の上田修署長が「交通事故が起きないように皆様と力を合わせ署員一丸となって取り組みます」と述べ、館岡子供交通指導隊と柴田子供交通指導隊、もりた保育園こども交通指導隊が「飲酒運転は絶対やめましょう」と大きな声で呼び掛けました。

つがるスポーツ少年団が全国銅メダルの活躍

第10回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会（3月23日～26日、高知県）女子の部で、つがるスポーツ少年団（成田信監督）が第3位となり、3月28日、福島市長に報告しました。

つがるスポーツ少年団は稲垣ジュニアクラブ、穂波クラブの児童8人で構成されたチームで、全国大会には48チームが出場。予選リーグは苦戦しながらも突破し、準々決勝で千葉県代表に2対0で勝利した後、準決勝で滋賀県代表に敗れ3位となりました。キャプテンの常川樹さんは「初日に連敗して駄目かと思ったけど、気持ちを切り替えて絶対勝つという強い気持ちでチーム一丸となって頑張りました。メダルをとれて嬉しいです」と笑顔で語りました。



全国大会3位を報告するつがるスポーツ少年団



決勝戦でスパイクを打つ稲垣少年クラブの岡本知也君

稲垣少年、稲垣ジュニアが準優勝 北日本小学生バレー

第28回北日本小学生バレーボール稲垣大会が4月14日、稲垣体育館を主会場に開催され、男子の部で稲垣少年クラブが、女子の部で稲垣ジュニアクラブがそれぞれ準優勝を果たしました。

大会には青森、岩手、秋田、宮城、山形から男女各12チームが参加し、開会式で稲垣町バレーボール協会の岡本幸剛会長が「一生懸命頑張って、見ている人に感動を与えるプレーを期待します」とあいさつ。稲垣少年クラブ、稲垣ジュニアクラブはともに予選リーグ、決勝リーグ準決勝を順当に勝ち進みましたが、決勝で男子が金ヶ崎VBC、女子が堀越ジュニアに敗れ準優勝となりました。



火災の予防を呼び掛ける

「消すまでは 出ない 行かない 離れない」を標語に春の火災予防運動（4月8日～14日）のパレード出発式が4月8日、市役所前で行われました。

出発式には消防団員67人、23台の消防車両が参加し、福島市長が「今年はすでに建物火災が8件発生し非常に多い状況です。火災時の迅速な対処に万全を期するとともに、火災を未然に防ぎ、地域の安全のため注意を払ってください」とあいさつ。箱田鐵雄消防団長が「各地域に火災が起きないように地域住民との連携を密にして防災パトロールに努めてもらいたい」と訓示しました。

式終了後、団員は市内各地を巡回し、火災の予防を呼び掛けました。



火災予防に決意を新たにする消防団員



メロン選果機を見学する参加者

最新鋭のメロン選果機を導入

ごしょつがる農協（白戸勝一組合長）に最新鋭のメロン選果機が導入され、4月5日、木造総合支店で竣工式が行われました。

新たな選果機は総額4億1500万円。メロンを通り抜けた光を分析して個々の糖度を正確に測定するとともに、メロンの形状や表面の網目をデジタル画像処理することで外観の等級判別が可能となりました。

竣工式では白戸組合長が「糖度、熟度、硬度、苦みを機械で識別することで市場や消費者の評価が上がるはず。高付加価値のつがるブランドメロンとして売り込んでいく」とあいさつ。福島市長が「新たな選果機導入がブランド化への弾みになると確信している」と述べました。

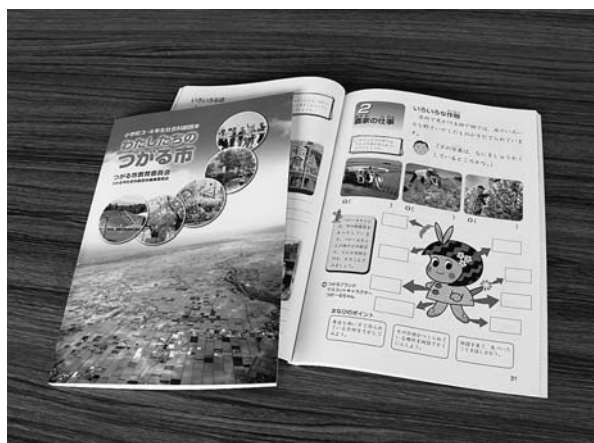
力を合わせてまちをきれいに

4月20日、西津軽土地改良区が主催するクリーンキャンペーンが行われ、保全会、自治会、子ども会など21団体約300人が清掃活動に参加しました。これは、春先のごみの不法投棄防止や環境美化を目的に毎年行われています。

開会式では増田教正理事長が「ごみのごみを呼ぶということもあるので、小さなごみも拾い集めて美しい環境をつくっていきましょう」とあいさつ。参加者は中の川、古田川、出精川の排水路沿いを6班に分かれて、木くず、ナイロン、金属、ガラスの4種類に分別しながら、ごみを丁寧に拾い集め、地域の環境美化に貢献しました。



ごみを拾い集める参加者



完成した社会科副読本

郷土を学ぶ社会科副読本完成

市教育委員会は、市内小学3、4年生社会科副読本「わたしたちのつがる市」（A4版140ページ）を発刊しました。

副読本は子どもたちの郷土を愛する心を育てようと市内小学校教諭を中心とした編集委員が平成24年度に作製。副読本には、市内の施設や風景、人物など数多くの写真が掲載されており、つがる市の様子や人々の暮らし、歴史について親しみながら学べる内容となっています。また、稲作農家やリンゴジュース工場など実際に働く人々も紹介しています。

教育委員会では「学習内容を身近に感じてもらえると思う。郷土を見直すきっかけになれば」と話していました。

副読本は松の館や各公民館の図書室で閲覧できます。